

令和7年度 江戸川区立小松川第二中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	東京都及び江戸川区教育委員会の教育目標並びに地域社会や生徒の実態を踏まえ、人権尊重の精神を基盤とし、我が国と郷土への豊かな愛情をもち、伝統と文化を尊重し、公共の精神を尊重できる、心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成を目指す。		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校 ・人権が守られ、暴力、いじめ、体罰がなく、生徒が安心して通える学校 ・生徒一人一人を大切に、個性や得意な面を伸ばす学校 ・夢や希望などをもつ児童で、その実現を目指す風土をもつ学校 ・「思いやりのある、心豊かな生徒」 ・「意欲で学び、考えを行動する生徒」 ・「規律を守り、責任を果たす生徒」 ・「心豊かさを、たくましく生徒」 ・教育に対する熱意と使命感をもつ教師 ・豊かな人間性と思いやりのある教師 ・生徒を自立させるために尽力し、生徒の成長する姿に喜びを感じる教師 ・職務の厳正に努め、組織の一員として職務を遂行する教師
前年度までの本校の現状	成果	・学力向上の取組 ・学校図書館蔵書量の増加と、それを活用した朝読書の習慣化 ・いじめの実態把握と解消に向けた取組 ・学校情報の発信	課題	・生徒の自己肯定感を高めるための授業展開 ・生活とつながった、楽しめる体力向上の取組 ・特別支援委員会の活用と個に応じた指導の充実 ・わかりやすい指標を基にした学校関係者評価の充実

重点	取組項目	具体的取組内容	数値目標	達成度		自己「中間」学校「中間」評価(A~D)		自己「年度末」学校「年度末」評価(A~D)		自己「年度末」学校「年度末」評価(A~D)		次年度に向けた改善案		
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント			
学力向上	○授業改善の推進	・「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の実施	・全国学力調査1できた「わかった」80%	B	B	B	全国学力調査状況調査において、「授業がよくわかる」と答えた生徒が72%。具体的な授業改善が課題である。	A	自己肯定感の育成のためには、「わかった」が実感できる授業は急務。	B	生徒アンケート「学校の授業がわかりやすい(国語・社会)」肯定的な意見は85%。	B	基礎学力の向上を図る。授業における「指導と評価の一体化」を推進し、生徒の成長と教員の能力向上に取り組み。	
	○学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	・外部人材を活用した放課後学習教室	・放課後学習教室を年間100回実施	A	A	A	1学期終了時点で計画通り25%の達成率。間口を広げ、幅広い生徒が受講できるようにする。	A	幅広い生徒層に声をかけ、実施をすることで成果が上がる。	A	計画通り、年間100回実施できた。	A	外部人材の活用はよいことだと思う。継続してほしい。区学力調査結果を分析し、教員による基礎・基本修得も図る。	
	○読書料の更なる充実	・朝読書・探究的な学習の推進 ・全生徒が読書記録と計画の記入	・朝読書年間21時間の確保	B	B	B	朝読書については毎朝実施し、読解力向上につなげている。学習成果物については、探究学習終了時の発表を目指す。	A	読書力向上は高く評価できる。	B	朝読書については、学校行事が近いときに実施できないことがあった。学習成果物はすべての学年で作成した。	B	読解力が学力向上につながるため、継続してほしい。総合的な学習の時間における探究活動としっかりリンクさせ、活動の充足を図る。	
体力向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・体育の授業に補助運動を取り入れる。	・体育の授業に補助運動を導入し、導入時の補助運動実施率90%	A	A	A	補助運動の実施率は90%以上である。成果については結果公表を待つ。	A	継続してほしい。	B	補助運動の実施率は90%以上をキープした。新体力テストの結果も区内で上位と思われる。	A	毎時間補助運動を導入、継続させる。	
	○部活動の在り方検討	・外部指導員を月に5回程度導入し、生徒の運動量を確保する。	・月5回の実施率90%	A	A	A	毎月5回以上導入しており、実施率100%である。	A	専門知識のある方の指導はありがたい。	A	男女バスケット部、野球部で毎月5回以上外部指導員を導入できた。	A	外部指導員の導入により、教員の負担軽減になってほしい。引き続き外部指導員の活用を図るとともに、持続可能な部活動の在り方について検討を進める。	
教育の実現に向けた 共生社会の推進	○特別支援教育の推進	・配慮を要する生徒に対して、個に応じた組織的な対応を検討する校内委員会の充実	・毎月2回の校内委員会実施率90%	A	A	A	4月は年度当初の特別な時程のため1回だったが、これ以降は実施率100%である。	A	校内委員会で組織的な検討を行う姿勢を続けて欲しい。	A	5月以降は実施率100%。生徒情報を共有し、適切な対応を協議している。	A	特別支援委員会の継続的な開催に限らず、対応方法の検討、及び共有を全教員で実施していく。	
	○学びのユニバーサルデザインの推進	・焦点化、視覚化、共有化の視点に基づいた学習環境の整備	・アンケートにおける環境満足度70%	B	A	B	一人1台端末の活用が進み、視覚化・共有化を図ることができている。学習環境の整備について、充実させていく。	B	タブレットを活用して授業を進めることは望ましい。	A	生徒アンケート「学びの環境が整っている」肯定的な意見は69%。掲示物、黒板周辺環境をさらに整える。	A	タブレットに限らず、ユニバーサルデザイン教育と人権教育とを合わせて推進していく。	
	○役割・学用品の見直し	・生徒、保護者、地域、教職員との話し合いの場をもち、検討を行う。	・年1回の検討委員会実施	A	A	A	年間計画に生徒心得検討委員会を位置付け、生徒、保護者、地域、教職員による検討を計画している。	A	校則は一方的なものではなく、生徒・保護者・地域も加わって議論するのは良いと思う。	A	12月に生徒心得検討委員会を実施。生徒・保護者・地域・教職員が参加し、協議した。	A	生徒への心得の周知、及び検討について推進し、開催回数も含めて内容を検討していく。	
不登校・いじめ対応の充	○いじめ見逃しをなくす	・いじめの早期発見・早期対応	・いじめ解消率100%	B	B	A	いじめを見逃さない体制を強化している。	B	まだ発見されていないいじめは存在すると思う。	B	作成時点で、解消率は100%に達していない。引き続き、指導にあたる。	B	引き続き、法的根拠に基づいたいじめの認知に取組み、解消率向上に努める。	
	○エンカレッジルームの活用推進	・学校に行き渋りのある生徒、不登校生徒への別室登校機会の提供	・別室登校を希望した生徒の利用率80%	A	A	A	校内別室利用登録者の利用は、100%。学びの多様化を学校全体で許容し、楽しい学校づくりを目指す。	A	少しずつ登校できる日を増やしてあげてほしい。	A	校内別室利用登録者の利用は、80%以上となった。エンカレッジサポーターも常時配置できた。	A	不登校生徒へのサポートを引き続き願う。東京都の事業変更に伴う校内別室の在り方を再度検討し、生徒が学校に求められる環境を継続する。	
	○Hyper-QUの活用	・測定結果を学級経営等に生かす。	・学校生活満足度が50%	A	A	A	学校生活満足度が、学校全体で56%。今後も心地のいい学校づくりを目指す。	A	過こしやすい学校を作ることには、学力の向上、心の安定に直結する。	A	学校生活満足度が、学校全体で56.8%。各学級における成果のあった取組を共有し、さらなる向上を目指す。	A	継続してほしい。Hyper-QUの活用方法を検討し、学校生徒の状況を適宜捉えていく。	
学校の実現 地域社会に	○自校の取組の積極的な発信	・学校だよりのホームページ公開、学年ごとの出来事やのホームページ紹介	・【学校だより1回】1【学年ごとの紹介】1【達成率】90%以上	A	A	A	学校だよりを4月から毎月発行し、ホームページに掲載。学年だよりをほぼ毎週発行し、すべてホームページに掲載。	A	とても分かりやすい。	A	達成率は90%以上。引き続き学校からの情報発信を丁寧に行い、地域に開かれた学校づくりを目指す。	A	学校ホームページについて、持続可能な形で更新が継続するようシステム構築していく。	
	○学校関係者評価の充実	・生徒、保護者、教職員の三者からの学校評価を実施、分析、公表	・保護者の回収率80%	A	B	A	保護者アンケートを11月に実施予定。本報告書を9月学校評議員会で協議し、2月にはアンケートの結果を改めて再協議する。	A	アンケートを丁寧に実施できている。回収率の向上と、内容の報告を。	B	保護者アンケートの回収率は50%。三者面談等機会を見付けて実施しているものの、わかりやすい内容の検討も必要。	A	アンケートは貴重な分析資料。未提出の方に入力を促すなど、回収率向上の工夫を。	A
教育の展開 特色ある	○生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校	・ボランティア清掃を実施参加することで、地域の中の学校をきれいに保つ意識の醸成を図る。 ・小松川平井地区連合大会や小松川平井マラソン大会等の地域行事に参加する。	・年1回の実施に際し、参加率20%を目標とする。 ・大運動会には60名が参加した。教員3人が参加した。	A	A	A	12月の推進週期において、生徒会主催の清掃を実施予定。	A	地域活動への参加はありがたい。	A	12月に生徒会主催の落石集いを実施。20%を超える参加率となった。	A	地域活動への参加を促していたが感謝。継続、推進を。	地域清掃活動のみならず、生徒が地域のためにできることを生徒主体で考案、実施していく。